

—学童期、思春期の特徴と歯科疾患—

北海道医療大学歯学部小児歯科学講座

教授 五十嵐 清治



■ 略歴

昭和45年	神奈川歯科大学卒業
昭和49年	北海道大学歯学部歯科保存学第一講座助手
昭和53年	同講師
昭和54年	歯学博士学位授与（北海道大学）
昭和60年	東日本学園大学歯学部小児歯科学講座助教授
平成6年	東日本学園大学歯学部小児歯科学講座教授
平成7年	北海道医療大学に校名変更 同附属病院副院長(平成7.4~9.3)

■ 現在

日本小児歯科学会常務理事
日本小児口腔外科学会理事
日本障害者歯科学会理事
日本医療福祉学会理事

人の成長過程における思春期とは、子供（小児）からおとな（大人・成人）に移行する期間である。身体的には性的成熟がおこり、子供の中性的な体型からおとなとの男性的・女性的な体型へと変化する。また、心理・社会的にはおとなとしての責任と義務を持ち、社会的な自立を遂げるための移行期間でもある。このため、心身両面において今までに体験したことのない変化が生じているといえる。また、社会的要因による影響も大きく、高学歴指向による大学や大学院への進学、女性、特に母親の就業率の増加、さらに少子化傾向が続く中、子供達を取り巻く家庭環境は大きく変化してきている。高成績→良い学校→高学歴→社会での安定（収入・地位・生活環境など）という親の期待のため、今の子供達は早くから塾通い、習いごと、一日中多忙である。その上母親の仕事による影響などで、子供達の食生活は乱れているといわれている。

一方、思春期は歯科的にも大きな変化のみられる時もある。思春期が発来する10~12歳児の口腔内では乳歯が全て永久歯と交換し、12歳臼歯といわれる第2大臼歯が生え始める時である。おとなの歯並びが完成するのは15歳前後であるが、この時は思春期のまっただ中といえる。

6歳以降の学童期より乳歯と永久歯の交換が開始されるということは、乳歯の脱落、永久歯の萌出、またそれをスムースに行うための顎顔面の成長発育がみられる。しかし、ムシ歯（齲歯）、歯肉炎（歯周疾患）、歯並びの不正（歯列不正）、咬み合せの異常（不正咬合や顎関節の疾患）、ケガ（歯の破折や脱落）などにより、正しい歯並びや噛み合せ、ムシ歯の害、みた目の悪さ（審美性の問題）など、歯科的にいろいろな問題を発生しやすい時である。したがって、本講演では歯科医療従事者から眺めた思春期の歯科的問題、思春期後の治療の困難性などについて、共に考えてみたいと思います。